

「高齢者の定義75歳以上に」老年学会提言

超高齢社会を迎え、日本老年学会は現在 65 歳以上とされている「高齢者」の定義を 75 歳以上に引き上げたうえで、それより若い人たちには就労やボランティアなどの社会参加を促すべきだとする提言をまとめました。

日本老年学会は医療の進歩などで健康的に生活できる期間が延びていることから、現在 65 歳以上とされている「高齢者」の定義について、医師や大学教授などのグループで見直しを進めてきました。そして、「高齢者」とする年齢を体力的な面などからも 75 歳以上に引き上げるべきだとする国などへの提言をまとめ、都内で発表しました。

提言では、そのうえで現在は「高齢者」とされている 65 歳から 74 歳までの人たちについては新たに「**准高齢者**」と位置づけ、健康な間は仕事を続けたり、経験を生かしてボランティアに参加するといった活動を後押しするなど、活力のある社会をつくっていく必要性を強調しています。

その一方で、**今回の提言を年金の支給年齢の引き上げなど、今の社会保障の枠組みに直接結びつけず、慎重に議論するよう求めています。**

日本老年学会のワーキンググループの座長を務める、大内尉義医師は「この 20 年ほどで老化のスピードが遅くなり、今、高齢者と呼ばれる人は生物学的に 5 歳から 10 歳ほど若返っていると見られる。若い労働者が減るなか、現在、高齢者とされている人たちの意識を変えて、社会を支える側に回ってもらう必要があるのではないか」と話していました。

◇ 高齢者 法律上の定義はなし

総務省などによりますと、「高齢者」の年齢に法律上の定義はありません。

昭和 31 年に国連の報告書が当時の欧米の平均寿命などをもとに、65 歳以上を「高齢」と表現したことを受けて、日本でも事実上、65 歳以上の人を「高齢者」と位置づけてきました。当時（昭和 31 年）、日本人の平均寿命は、男性が 63.59 歳、女性が 67.54 歳でしたが、その後、食生活の改善や医療の進歩などで伸び続け、おととしは（平成 27 年）、男性が 80.79 歳、女性が 87.05 歳となりました。

また、介護の必要がなく、健康的に生活できる「健康寿命」も、平成 25 年の時点の推計で、男性が平均で 71.19 歳、女性が 74.21 歳で、いずれも 70 歳を上回りました。

こうした中、去年（平成 28 年）、厚生労働省が行った意識調査で、「自身について何歳から高齢者になると思うか」を尋ねたところ、全体で最も多かったのが 70 歳以上という回答で 41%、次いで現在と同じ 65 歳以上が 20%、75 歳以上が 16% などとなりました。また、平成 25 年に内閣府が 60 歳以上の男女を対象に行った意識調査で、「何歳ごろまで仕事をしたいか」を尋ねたところ、「働けるうちはいつまでも働きたい」という回答が 30%と最も多く、次いで「70 歳くらいまで」

が 24%で、「65 歳くらいまで」は 21%でした。意識調査では、65 歳を超えて働きたいという人は合わせて 66%となり、3 人に 2 人の割合でした。

高齢者の健康と生活支援に詳しい、国立長寿医療研究センターの鳥羽研二理事長は「海外では定年がない国もあり、高齢者の社会貢献の促進が進められているが、日本はそうした施策が遅れている。企業も高齢とされている人たちが、知識や技術を社会で生かせるよう、積極的に取り組んでいくことが期待される」と話していました。

◇ 街の人は...

日本老年学会が現在 65 歳以上とされている「高齢者」の定義を 75 歳以上に引き上げるべきと提言したことについて、東京・銀座で聞きました。

教育関係の仕事をしている 61 歳の女性は「まだまだ働けますし、いつまでも若くいたいのので、高齢者と呼ばれるのは 65 歳より、もう少しあとにしてほしい」と話しています。横浜市に住む 61 歳の女性も「今でも席を譲られるのは少し抵抗があるので、高齢者と呼ぶのは 70 歳くらいからにしてもらいたいです。ただ今も年金での生活は苦しいので支給年齢が引き上げられたりすると、困るなという気持ちもあります」と話していました。

一方、都内に住む 76 歳の男性は「高齢者と呼ばれてもそれほど抵抗はありませんし、今までどおり、65 歳以上のままでも構わないと思います」と話していました。また去年（平成 28 年）退職したという川崎市の 64 歳の男性は「仕事の内容しだいでは 65 歳を超えても働き続けられると思いますが、実際には体力的に衰えてしまいます。高齢者と呼ばれても構わないので、無理をせずに早く休みたいというのが本音です」と話していました。

このほか、都内に住む 40 歳の会社員の女性は「両親も高齢者と言われる世代ですが、まだまだ現役で仕事も運動もしているので、『高齢』という言葉はそぐわないと思います。そもそも体力などは人それぞれなので、高齢者という言葉でひとくりにすることに疑問を感じます」と話していました。

////////////////////////////////////
〒460 - 0006
愛知県名古屋市中区葵 1 丁目 27 番 3 号
 染木第 2 ビル 4 階 403 号室
 社団法人日本福祉車両未来研究会
 電話 052 - 937 - 2941
 FAX 052 - 937 - 2940
 Mail info@294mirai.com
 <事務局 吉川 剛>
////////////////////////////////////

会員企業名
〒239-0842 横須賀市長沢6丁目30番4号 有限会社ヤマヨク保田商会 電話 046(849)3210 FAX 046(849)7147